

えびあん

立川と語ろう 立川に生きよう

May 2023

Écoutez Bien Vol.39 No.458

5

さくら、さくら、ここにもさくら



表紙／空におどるや、鯉のぼり(幸町)

Let's GO DICE



地域貢献活動

地域の皆さんとかがわって

小学校へ、福祉施設へ、商店街へ、
選手がおうかがいして
市民の皆さんとの交流を続けています

4月に行われたホーム戦4試合で、2022-2023シーズンが終わりました。今月は試合の合間に選手たちが行ってきた地域への取り組みをご紹介します。選手たちはスタッフと共に、小学校へ出向いてバスケットクリニックを行ったり、商店街を訪問してダイスのポスターを掲出してくださっているお店にご挨拶させていただいたりしています。その様子を写真でご覧ください。



写真提供：ダイス



商店街訪問の様子



立川シティハーフマラソンでランナーの皆さんを応援 逆にいつも皆さんに応援されていることを再確認できた1日でした

立川福祉作業所訪問の様子



小学校訪問の様子

漢詩文と日本

文字の組み合わせを読み解く

連載インタビュー四人目にして、また目からウロコ。

凝り固まった漢文へのイメージを払しょくする「日本の漢詩文」。

——小学校から海外に行かれたとか。

山本 父の仕事で小学四年の時にマレーシアへ行き、現地ですインターナショナルスクールに入りました。天地がひっくり返るほどの経験でした。二年後、中学校への進学をひかえて帰国した時には、まったく異なる人間になっていました。反抗的すぎた私にも問題はあったのですが、同級生とも教師ともうまく付き合えず、高校からアメリカに行くことを両親に承諾してもらいました。ニューハンプシャー州の全寮制の高校で、とても充実した学校生活だったので、ここでもカルチャーショックの連続でした。マレーシアの小学校には、色々な国籍の先生や同級生がいましたが、アメリカの高校では、アメリカの文化に合わせる必要がありました。自分が外国人であることを強く感じさせられましたね。

——大学もアメリカですか。

山本 はい。ボストンにある大学です。高校在学中は、いわゆる外交官を目指していたので、政治経済の研究やその方面の実務に強いハーバード大学を選びました。

——すごい経歴ですが、いったいどこで漢文学につながるのですか。

山本 紆余曲折ありました(笑)。アメリカの大学は、入学してから専攻を選ぶことが多いのですが、大学一年の時に政治学と文学の授業を取ってみて、自分は文学のほうが向いていることに気づきました。それで、比較文学を専攻することにしました。でも、やはり実務の世界に行つて

みたいという思いがあったので、大学卒業後は、アメリカの投資銀行の日本支社に就職しました。大学在学中は、会計学の授業を受けたりもしたんですが、いざ現場に出てみると、数字の感覚はないし、そもそも投資に興味も持てなかった。折しもリーマンショックで投資案件は皆無。七か月で退職しました。人生ではじめての挫折だったと思います。自分が本当は何をしたかったのかも、わからなくなりました。でもそのころ、江戸時代の漢詩に興味が出てきたんです。

——何がきっかけ？

山本 投資銀行にいながら悩んでいた時期、朝方まで眠らずに色々な本を読んでいた。その時に出会ったのが、中村真一郎が書いた、江戸時代の漢学者がどういう生活を送っていたかという本でした。当時の私のような素人には入りやすい世界を用意してくれていて、面白さを肌で感じる事ができたのです。母語の日本語とは違う言葉、つまり古典中国語である漢詩や漢文で、本格的に読み書きしていた人たちが昔の日本に大勢いた、ということをはじめて知りました。自分が英語を身につけ、母語と外国語の間を行き来してきた経験とも重なって、面白いな、と。そこから江戸時代の漢詩文について学びたいと思い、ネット検索するうちにロバート・キャンベル先生のことを知り、メールを出して東大の駒場キャンパスまでお目にかかりに行きました。二〇一〇年から二〇一六年まで、修士課程、博士課程と、キャンベル先生と齋藤希史先生のもとで学ばせてい

ただきました。私がアメリカで高校、大学を出たということも包み込んで理解してくださった上で、厳密な研究方法を一から教えてくださいました。

——先生は漢詩文に携わって何年になるのですか。

山本 大学院に入ってからなので、十三年です。漢詩文をまったく勉強したことのない私が急に入ってきて、駒場の先生方や日本近世文学会の先生方は、勉強してきていないことなんて関係なく接していただきました。何も知らない私は、すぐに追いつかなければならなかったのですが、おかげで追いつこうと前向きになりました。手加減されたわけではなく、厳しく指導していただきました。叱られたこともあり。でも、その厳しさの裏には、「遅すぎることはない。今からでもあなたが勉強したかったらできるし、そのサポートはしますよ」という優しさがあったんです。

——ところで、江戸時代の日本人は漢詩文なんて書いていたのですか。

山本 書いていました。膨大な量が残っています。江戸時代だけでなく、飛鳥・奈良時代から現在まで、日本の人が書いた漢詩や漢文はたくさんあるんです。

——古文や漢文の授業は嫌いと言う方が多いです。

山本 私も中学・高校の古文とか漢文とか大嫌い。古文の勉強を活用から始めるとか、漢文をレ点から教えるとかナンセンス。ありえない。

——でも、そうだとしたら、学生にどこから教えるのです

思っています。日本にとって、漢詩文は、外から入ってきたものですが、日本にたくさん残っていて、歴史と文化の大切な一部になっているんです。

——仏教もそうですね。日本で生まれたものではないけれども、日本に根づいて、残っている。

山本 おっしゃる通りです。漢詩文、漢字もそうです。それを見過ごしてしまうのは、もったいないと思います。

——漢字は面白いですね。

山本 漢字の一番の面白さは、文字の並べ方、組み合わせ方にあります。漢詩文は、パズルのように、あるいはパッチワークのように、漢字のうまい組合せが腕の見せどころなんです。特に漢詩は、パズルそのものです。新井白石の漢詩は、漢字の組み合わせがとてもすばらしくて絶妙です。李白が使ったのと同じ漢字のプロックを、わざと自分の漢詩の中の絶妙な位置に置いて、唐代の中国に生きていた李白の人生に自分の人生をうまく重ね合わせて、自分の生き方を探る、といったことが行われているんです。詳しくは、『詩文と経世』という本を名古屋大学出版会から出させていただいているので、それをお読みいただければ幸いです。国文学研究資料館にあります(笑)。あと、キャンベル先生が編集した『日本古典と感染症』に、「江戸時代の漢詩文と感染症」という文章を書いています。そこでも江戸時代の日本漢詩を分析しているので、ぜひご覧いただけるとありがたいです。

山本嘉孝さん

国文学研究資料館 研究部 准教授

日本の漢詩文(漢詩と漢文)、主に江戸時代、明治時代の日本人が書いた漢詩文を研究している。関西にルーツを持つ東京人。小学四年生の時に、父親の仕事の都合でマレーシアへ。二年間滞在した後、帰国。マレーシアでの生活を経験したことで日本の学校生活に馴染めず、高校からアメリカへ行き全寮制の学校へ入学。ハーバード大学を卒業し実務の世界へ踏み込むも、本当は何がしたいのかわからなくなり、色々考える中で、当時東京大学大学院の教授だったロバート・キャンベル氏に出会う。そこから東大大学院へ進学、日本の漢詩文を専門に研究することを決める。卒業後は大阪大学で専任講師として日本漢文学の授業を持ち、二〇一九年から国文学研究資料館 都内の大学で、日本文学や中国文学を教えることもある。奥様はエチオピア系アメリカ人。同じハーバード大学の出身で、日本美術を専攻し、日本の金融やテクノロジー業界で十年勤務したが、現在は医学の道に進むべく猛勉強中。

か。

山本 漢文の授業だったら、いきなり江戸時代の資料を見せるというところから始めると思います。まず日本でどれだけ多くの漢詩、漢文が読み書きされてきたかということ肌で感じてもらう。日本を含む漢字圏で、伝統文化の中心は、音楽でも演劇でもなく、やはり文字、文字で書かれた世界だと思えます。絵も大事なのですが、漢字圏の絵は文字の延長線上にある。音楽とか演劇は西洋では重要なのですが、東アジアにおいては、古い時代の音楽は失われてしまったということになっていて、舞台芸術が文化の中心に来ることはなかった。漢字圏は、どこでも文字中心、漢字中心の文化なんです。仮名文学のぶ厚い伝統がある日本でも、一番の正統性があったのは漢字で書かれたもの、漢詩と漢文でした。

——なるほど。

山本 東アジアでは文化の最高峰が漢詩文でしたから、日本もそれを受け入れて、文化的な国であることを内外にアピールしてきた歴史があります。文化国家であることの証が漢詩文だったのです。しっかりとした漢詩文を書ける人材が存在していることが、一種のソフトパワーとなり、外

交や国際政治の場でも役に立った。日本の場合、漢詩文を身につけることで、中国の文化をたくさん受け入れることになりましたが、それだけでなく、日本を文化国家として成り立たせて、日本の独立や独自性を守ることもつながりました。中国だけでなく、日本、琉球、朝鮮、ベトナムにとつて、漢詩文は何だったのか。そういう視点に立つて、漢詩文を教えていきたいと思っています。

——阪大での教材は何だったのですか。

山本 一つは、今の石川県にいたお医者さんが書いた生け花の漢文作品です。

——高尚な趣味としての生け花ですね。
山本 そうです。知識人は自然を愛します。古今東西、共通していることです。漢詩文の世界では自然のことを「山水」と呼びます。人間社会の細々とした事を意に介さず、自分自身の理想やプライドを保ち続けるのが知識人で、自分が位をはく奪されたり追い出されるのがあっても、まったくそれによって自己はブレない。ではどうやって自己を保つかというと、一つには実際に山奥に行つて、清らかな自然に接する。それが理想ですが、それができない状況ならば、庭を造る。でも、庭を造るには場所が必要で、

お金もかかります。それで、手頃な方法として生け花があるのです。山水画を描いたり、山水画を部屋に置くのも同じです。そこに漢詩を添えたりする。それが知識人の生き方でした。漢詩文を読み書きできた夏目漱石などもこういった世界観で生きていた人ですね。今の日本では失われてしまった生き方でもあります。本家本元の中国でも、かなり失われてしまった。

日本の人が書いた漢詩文でも、中国や朝鮮半島、あるいは琉球、ベトナムの人が書いた漢詩文でも、読めばこういった世界観が蘇ると思います。私は一人の日本人として、こうした世界を引き継ぎたいと

山本嘉孝さん



満開のさくら、さくら、さくら

マスクなし、声出しありの花見です

立川では、雨に濡れた満開となりました。
それでも花は美しい。
無料で見られるさくらを紹介します。
盛りのソメイヨシノをご堪能ください。



野山北公園自転車道(武蔵村山市)



玉川上水(上砂町)



根川(柴崎町)



諏訪公園 真如苑の稚児行列の間だけ雨が止むという不思議 枝垂桜満開



広大な真如ヤーナ 東京都ドクターヘリの発着所として提供されています



真如ヤーナオープンデー「お花見散歩」の様子
近隣の方々が自由に楽しんでいました



立飛の桜、MAO RINK 建設予定地(高松町)



残堀川(富士見町)



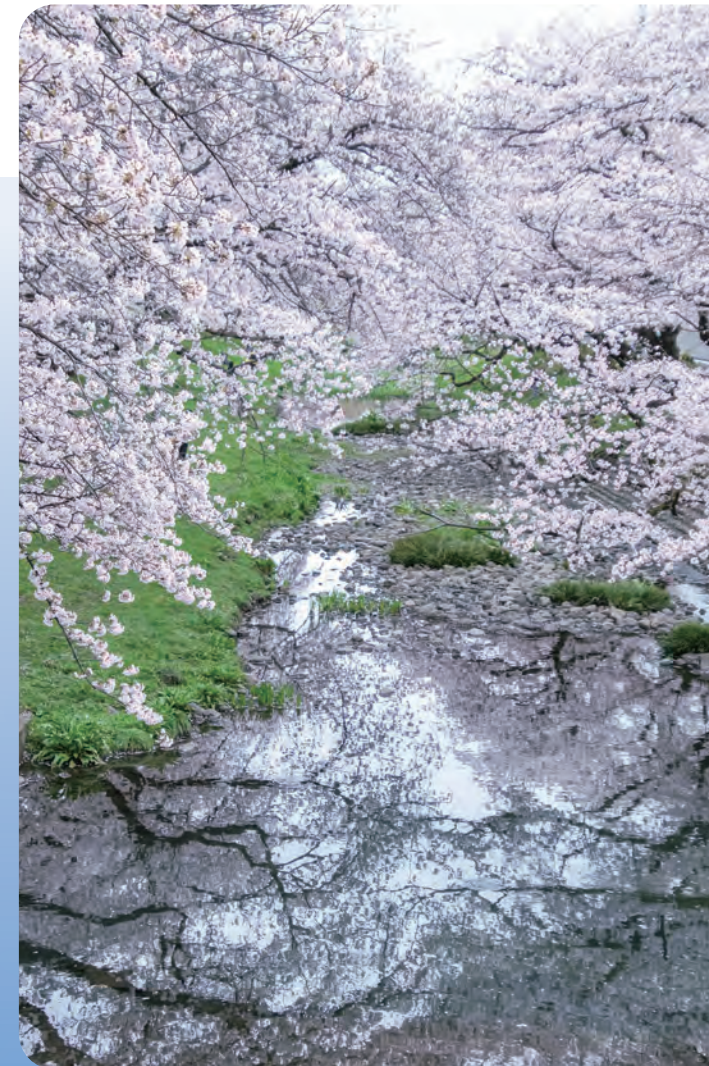
泉体育館(泉町)



残堀川(上砂町)



残堀川(柴崎町)



根川(柴崎町)



立川市と武蔵村山市にまたがる真如ヤーナの桜の苑

えくてびあんの輪

えくてびあんはリストのお店にあります。
今月は 柴崎町・富士見町・立川市外 のお店です。

柴崎町

- 酒歩 たから……………528-1510
- リサイクル着物 着楽堂……………523-9702
- 天婦羅・うなぎ 良銀……………522-6702
- ギャラリー きらら……………522-3913
- 生活雑貨 EAST END……………523-9636
- 特むし銘茶・海苔 菊川園……………526-2035
- ジョイフルプラザ……………0120-29-2775
- めん心 堤屋……………525-6602
- hoccori* café……………595-8379
- 立川わかば整骨院……………526-8518
- 中華小皿料理 得得屋……………528-1060
- Fashion You Me……………523-1640
- 石原薬局……………523-4067
- サイクルハウス 輪輪館……………522-8100
- (株) 正盛堂……………522-2328
- 小林歯科クリニック……………527-8217
- ビューティーサロン ウィスタリア……………527-1116
- オリオン書房 サザン店……………525-3111
- WISH BONE……………527-7199
- 西武信用金庫 立川南口支店……………529-1311
- たましん 南口支店……………528-2211
- リオネットセンター立川……………523-3321
- りそな銀行 立川支店……………522-4161
- オリオン書房 アレア店……………521-2211
- ほっとすべーす 中屋……………522-2932
- 立川ワシントンホテル……………548-3380
- Coffee Shop LARGO……………525-6704
- のかる・バザール……………548-2511
- ジバー・カフェ……………548-2511
- ペーカリー&カフェ BAKU BAKU……………527-2721
- 喫茶 ギャラリー花……………524-3668
- 髪職人 YOSHIZAWA……………522-5593
- 矢沢歯科……………525-6600
- キッチンコート立川店……………540-1131
- LaLaLa……………090-2564-3198
- 酒 醜齋……………522-4926
- スープ・カフェ なんでもない日……………523-5114
- 武本測量 (株)……………524-7731
- 立川市柴崎市民体育館……………523-5770

富士見町

- (株) 浅見酒店……………522-2823
- 西村歯科クリニック……………519-9501
- 井上レディースクリニック……………529-0111
- 中華レストラン 東華園……………529-0458
- 有料老人ホーム サンピナス立川……………527-8866
- 飯塚花店……………522-5684
- うさぎ専門店 ラッキーラビット……………524-6054
- びーびーK 70……………525-3623
- (株) ホーミー……………522-2220
- カフェ 貸しホール ばくだん畑……………522-2214
- トロピカル・ジーナ……………512-7210
- 波多野米店……………522-2884
- 立川市社会福祉協議会……………529-8323
- 立川市歴史民俗資料館……………525-0860
- 乙黒東洋整骨院……………523-1859
- インテリア アイアイ……………522-5972
- たましん 富士見町支店……………528-1741
- ESPOA おぎの……………522-4500

立川市外

- 昭島市
- ECO'S 昭島店……………546-3710
- 武蔵村山市
- 中国料理 菜……………561-7233
- 国分寺市
- パンの店 fermata……………534-3334

jorakugajo

真如苑提供番組「常楽我浄」

スカパー！：529ch

スカパー！で放送の常楽我浄は
スマホアプリ「スカパー！番組表」(無料)で視聴できます。

J:COM 多摩：11ch・111ch

放送時間については番組表をご確認ください。

www.shinnyo-en.or.jp

街の話題

植樹記念のテープカット
手前の枝がマグノリア ワダズ メモリー

今年も植樹

昨年はパレスホテル沿いに桜を植樹した立川口ロータリークラブ。今年から3年間でパレスホテル南側の道路にマグノリアを10本植樹するそうです。そのうちの3本を3月10日に植えました。老朽化した木を伐採したままになっていた場所に、街路樹を植えることで景観を美しく保ちます。その後、昨年同様、震災の記憶を風化させないための「東北の桜」近辺を、西国立保育園の園児と共に清掃しました。



子どもたちと清掃の様子



2015年の様子 アメリカハナミズキの木がきれいでした

新曲初披露は立川で

3月19日、いいお天気になったGREEN SPRINGSで、大阪発5人組ロックバンド〈Novelbright〉がアコースティックフリーライブを行いました。新曲も立川で初披露。事前告知はほぼ無いに等しい状況なのに、3000人以上の人が集まりました。2019年7月に開催したライブツアーがSNSや口コミで大拡散。2020年8月にメジャーデビュー、その暮れの第62回日本レコード大賞で新人賞を受賞したユニット。ヴォーカルの竹中雄大さんの歌はもちろん、世界一を獲得した口笛も最高でした。



写真: avex

青梅線、ワンマン運転始まっています

写真は、JR東日本のワンマン運転対応の「運転士用乗務員訓練シミュレータ」です。3月18日から青梅線の一部で始まったワンマン運転に先駆けて、3月14日、メディア向けに訓練の様子が公開されました。乗降確認モニターには各駅のホーム上の風景をCGで再現。乗務している線区の実写映像を使って駆け込み乗車や線路内へ人立ち入りなど、線区特有の事象が正面に映し出され、模擬訓練が行えるようになっています。車掌の役割も担っていく運転士ですから、やることは増えます。でも、そこを訓練で、お客様と共に安全安心を乗せて走ります。



立川総合事務所内にある運転士訓練室で

今年も忘れない、3.11の祈り

被災した石巻の着物屋さんとの出会いから、いつのまにか大きな輪が広がって、今年もすてきなコンサートが開かれました。3月27日、ステージガーデンのロビーで行われたのは「立川 3.11の祈り」コンサート。「できることをできるだけプロジェクト」を主宰するしおみえりごさんは、「全てが音楽から始まりました。音楽やアートの力はいつの時代も前へ進む大きな(気)をもたらせてくれます」と。今年もモーツァルト作曲「グランパルティータ」を12本の管楽器とコントラバスで演奏。演奏者は被災着物のリメイク衣装を身に付けて、そのハギレで作ったパッチワークがコンサートを彩りました。素晴らしい演奏でした。



お客様は布を並べてあった階段にも
どんどん増えて…



開場するとあっという間に客席はいっぱい



力強く、また美しく奏でられる「グランパルティータ」



衣装は被災着物リメイク かっこいい

「MAO RINK PROJECT」記者発表会

立川に浅田真央さんの名前を冠したアイススケートリンクができます。場所は立飛駅の南東、立飛ビール醸造所やららぽーと立川立飛と並ぶエリア。立飛駅を降りてららぽーと立川立飛の中を歩いて桜並木を歩くとすぐ正面玄関という立地。今年もみごとに咲いた立飛の桜をアイスリンクは借景にできるというぜいたくな建築コンセプトです。真央さんの長年の夢「自分のスケートリンクを作りたい」が実現される今、地元メディアを代表してえくてびあんが質問させていただきました。——なぜ第二の人生の舞台に立川を選んだのですか?「立飛HDの村山社長の温かいお人柄に私自身が村山社長にお願いしたいと強く思ったので、感謝でいっぱいです」——えくてびあんでは立川で活躍される人を〈立川人〉と呼んでいますが、真央さんもこれからは〈立川人〉でよろしいですか?「はい。それはもう!私は常にここにいると思いますので、〈立川人〉になっても大丈夫でしょうか(笑)」——村山社長、たくさんオリンピックがいらっしゃる立飛さんですが、浅田真央さん、どのように私たちはお付き合いしていけばよろしいですか?「真央さんにはとんとん地元の方の皆さんとのかわわりをお願いしたいと思っております。真央ちゃんも、これからは〈立川人〉ですね!「MAO RINK」は2024年秋オープン予定。



浅田真央さんと立飛HD村山正道社長(「MAO RINK」建設予定地)

表紙

願いをのせて空を泳ぐ(幸町)

表紙の写真は2016年4月に幸町の古民家園で撮影したものです。5月5日は端午の節句。男の子のお節句とされています。お人形屋さんの話では、鯉が急流をさかのぼり竜門という滝を登ると竜になるという中国の伝説に始まった日本の風習が「鯉のぼり」。人生のいろいろな困難を乗り越えて、一人前の人間になって欲しいという親の願いをのせて、今年も鯉が空を泳ぎます。だんだん庭のある家が少なくなり、マンションのベランダから小さな鯉のぼりがのぞいていることもあります。古く東西、子どもには元気に伸び伸びと育ってもらいたいという親の願いは同じはず。我が子だけでなく、海の向こうの子どもたちにも自由と平和、国土の安寧を願います。

かたこと

◆WBCロスにもそろそろ慣れて、世の中は新年度になりました。異動があったり、なかったり。えくてびあんの配布先にも誤りがないよう入念にチェックしましたが、それでも宛先が間違っていましたらすみません。どうぞ一報ください◆着物屋さんの丸屋さん、平さんの愛称で親しまれていた伊藤平八朗さんが、3月13日、98歳の大往生。えくてびあんでは、平さんに何度も昔の立川を語ってもらいました。その内容は後日掲載いたします◆今の話題はやっぱり「MAO RINK」。テレビでも新聞でもニュースになり、ネットにはワットとアップされました。スケートリンクだけでなく、立飛駅周辺にはいろいろなジャンルの建物が建ってきているし、建っていきます。えくてびあんが初めて立飛HDの村山社長にお目にかかった時、「立川には何が足りない?」と聞かれました。その回答がだんだん見えてきているのかなと思っております◆だとしたら、立川の長年の懸案事項「南と北をつなぐ」さらには「回遊できる立川」へ、真剣に取り組むのがいいのかなと。本年7月1日から改正道交法が施行され、電動キックボードが利用しやすくなります。現在立川市内に121か所のポートがある電動キックボード「BIRD」では、6月30日まで60分間何度でも0円キャンペーン中。試乗会でしっかり練習して乗るのもいいかもしれません。怖いけど、えくてびあんもやってみますか。

えくてびあんスタッフ一同

えくてびあん ㊄

5月号 第39巻 通巻458号

令和5年5月1日発行
発行 有限会社えくてびあん
〒190-0023
東京都立川市柴崎町2-1-10 高島ビル4F
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065
E-mail message@tamatebakonet.jp
URL https://www.tamatebakonet.jp
発行人 黒須 環
企画・写真・編集 えくてびあん編集スタッフ
デザイン 池田隆男 (WATER DESIGN ASSOCIATES)
加賀谷真志 (スイープデザイン)
印刷 ダイオーミウラ株式会社・DECK C.C.

無断転載を禁じます。



緑道から見える「なんでもない日」 今日もおだやかな時間が流れる
花、花器とも大森良子

私の立川 私と立川

——【最終回】

スーパカフェ なんでもない日の穏やかな日々

私の記憶では、開店当初七色唐辛子のプランターをカフェに運び込み、「小枝を切ってテーブルに飾ってね」と店主の眞知子さんに託したことから始まったような…。以後カフェのお花と花器は任せてもらった。

カフェ「なんでもない日」も、この春で十年目。根川の大切な心温まるスポットになっている。今年も遊歩道には桜吹雪が舞い、鶯が鳴き鴨やアオサギは巢作りに忙しい。毎週金曜日は我が家の小さな庭で育てた花や、採取した野草をカフェの無垢のテーブルやカウンターに生ける日。野草と花の組み合わせは、すっかり定着してなんとも愛らしく、ちょっとお洒落になる。野草の西洋なずな、猫じゃらし、仙人草、山ほろし、秋の木の実のナンキンハゼ、野バラなど私にとっては大切な宝物。野草マップはしつかり頭の中に。

夫の音楽武者修行に伴ったのち、終の棲家となった立川での暮らしも四十年が経った。昨年春からの「えくてびあん」の連載はシニアの私にとっても刺激的な出来事となった。女性十二人のエッセイのリレーは、まるでカフェの日替わりスープレのようにバラエティに富んでいる。

大森良子